

令和 7 年

亀山市教育委員会 8 月定例会会議録

亀山市教育委員会 8 月定例会会議録

1. 日 時

令和 7 年 8 月 2 5 日 (月) 午後 1 時 3 0 分開会

2. 場 所

亀山市役所本庁舎 3 階 理事者控室

3. 出席委員

教育長	中 原 博
1 番委員	大 平 雅 章
2 番委員	吉 岡 洋 子
3 番委員	若 林 喜美代
4 番委員	宮 村 由 久

4. 欠席委員

なし

5. 議事参与者

教育部長	大 平 守
教育総務課長 (以下総務課長という。)	麻 生 俊 哉
学校教育課長 (以下学校課長という。)	武 居 政 敏
生涯学習課長 (以下生涯課長という。)	落 合 努
図書館長	高 重 京 子
学校教育課主幹兼学事教職員グループリーダー (以下学事GLという)	加 藤 剛
学校教育課主幹兼教育支援グループリーダー (以下教支GLという)	北 川 恵美子
学校教育課主幹兼教育研究グループリーダー (以下教研GLという)	小野寺 順 子
教育総務課主幹 (兼) 保健給食グループリーダー (以下保給GLという。)	渡 邊 尚 也
教育総務課主幹 (兼) 教育総務グループリーダー(書記) (以下総務GLという。)	中 野 貴 晶
教育総務課教育総務グループ主任主事	岩 谷 千 夏

6. 会議録署名者指名

3番委員（若林喜美代委員）

4番委員（宮村由久委員）

7. 会議録の承認

7月定例会

8. 教育長報告

教育長（令和7年8月定例会教育長報告に基づき報告）

9. 議案

教育長 議案第48号「亀山市教職員研究助成金交付規程の廃止について」事務局の説明を求める。

教育部長 議案第48号「亀山市教職員研究助成金交付規程の廃止について」であります。提案理由としましては、当該訓令に係る助成金に代わり、今後は市が主導する研修プログラムや外部の助成金制度へ誘導を強化することで、教職員の専門性向上を図っていくため、亀山市教職員研究助成金交付規程を廃止することについて委員会の議決を求めるものです。詳細につきましては学校課長より説明いたします。

（資料に基づき説明）

（異議はなく、議案第48号は可決される。）

教育長 議案第49号「令和6年度教育に関する事務の点検・評価報告書について」事務局の説明を求める。

教育部長 議案第49号「令和6年度教育に関する事務の点検・評価報告書について」であります。提案理由としましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、令和6年度教育に関する事務の点検・評価報告書を作成することについて、委員会の議決を求めるものです。詳細につきましては、総務課長より説明します。

（資料に基づき説明）

大平委員 資料48～49ページの評価シートについて、この校務支援システム事業は、教職員1人当たりの総勤務時間の削減等について目標設定がなされており、資料49ページに実績報告が明記されている。そもそも令和3年度に目標設定をしてから、4年、5年、6年と継続されている中で、計画値が年ごとに20時間・40時間・60時間という時間設定だと思われるこの目標値が20時間ずつ増えているものに対して、実績が少し伴っていない感じを受ける。この目標値の設定について、コロナ禍も明け、先生方の仕事がどんどん増えていく昨今の中で、このまま進めていくものなのか、妥当なものなのかという部分について教えていただきたい。

学校課長 委員ご指摘のとおり、令和3年度の実績値をもとに、この令和7年度までの目標値を設定しています。今回の事務点検評価等でも計画値が実情と合っていないのではないかという指摘もいただいています。令和7年度まではこの指標で実施することとなっており、変更はできませんが、次期の主要事業を立案する時には、検討させていただきたいと考えています。

大平委員 令和7年度までの指標が出ているから、そのとおり進めるという考え方ではなく、令和5年の段階ぐらいの結果を見てみれば一目瞭然であり、補正又は修正をかけるべきではなかったのか。

学校課長 主要事業の位置付けがなされている事業については、一定程度の事業内容の変更であったり、予算額が大幅に変更されたりという一定の基準のもと、市全体で変更するものとなっており、変更なく現在に至っているものです。

大平委員 令和7年度の最終報告に向けて、今年度はおそらく正念場になってくると思われるが、駆け込み調整のようなことが発生することなく、また過剰な削減の取り組みがなされないように願う。結果は結果として、達成出来なかったとしても正当な数字で出してもらって、次からの目標設定に繋げていただきたい。

宮村委員 同じく、校務支援システム事業について、資料69ページに「課題」と「今後の取組」が記述されているが、その中に「公務支援システム事業については、教職員一人あたりの総勤務時間の削減時間が増加しています。」とある。これは、校務支援システムはうまく機能したが、教職員一人あたりの総勤務時間が増加し

てしまったと理解していいか。校務支援システムを導入したために総勤務時間が増えたのではないと考えられる。また、校務支援システムはうまく機能していたと考えられる。次の文によると、「事業がうまく機能したから、その空いてきた時間を個別の生徒指導や保護者対応を行った結果、総勤務時間が増えた」とある。記述内容を見ると、少し校務支援システムが導入されたから時間外勤務が増えたような感を受けてしまうが、そうではなくシステムを導入したことによって違う業務等も行うことができ良かったと理解していいのではないかと思う。

学校課長

校務支援システムの導入については、プラスの効果もあったと認識しています。ただ、先ほどご指摘があった指標については、少し記述もさせていただいていますが、教職員の満足度等で図るべきではなかったのかというご意見も伺っています。一方、勤務時間が増えた・減ったというのは、別の要因があるのではないかという点も踏まえ、委員ご指摘のとおりと認識しています。

宮村委員

資料49ページにある指標の欄で、年間総勤務時間の削減を指標にしているが、そうではなく今まで手作業等で行ってきた様々な校務がシステム化したためにどのように変わったのかという部分が指標になると考えられる。令和3年度の手作業等の時間数を基本として、それ以降の年度がどのように変わったのか、削減できたのかを見ないとうまく表せない。次期総合計画策定時にはご検討いただきたい。

また、全体的な部分で、2つの基本施策があり、それぞれ非常に良く実施されている感を受ける。その中で、「子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実」については総合評価がBとなっている。A～Dの4段階評価であるため難しいが、個人的にはB+のような評価になってもいいのではないかと感じている。ただ、それぞれの主要事業の評価を見ると、成果がAの事業については、引き続き頑張りたいと思うが、Bの事業については、Bのままでは良くなって、さらにまだ上のA評価を目指して頑張るとするのがBの位置付けと思う。その中で資料を見ると、B評価の事業についても⑦「事業の展開」欄が「現状どおり事業を継続する」となっている。それぞれの評価見ると、令和5年も令和6年もBが続き、尚且つ令和7年度もBで現状どおり事

業を継続するならやはり今後もB評価となってしまう。この報告書も公表されると思うが、例えば、現状どおり事業を継続するだけではなく、新たな工夫を試みるとか、新しい智恵を絞るとか、何かしらの言葉が必要となってくるのではないか。

教育部長

使用しているシートにつきましては、市長部局で作成されたシートと同様のものをそのまま使用することとしており、この項目については選択制として「現状維持」「拡大」「縮小」「廃止」「他事業との統合」「完了」といった6種類程度しかありません。よって、「現状維持」を選択しながら今後も頑張っ進めていくという認識の基、選択を行っています。今回の計画は令和7年度までとされており、現在評価をしたとしても令和7年度に改善することは難しい部分もあります。ただ、「現状維持」としながらも令和7年度で対応したもの、対応するものについて、まずは⑦の左欄に記述させていただき、右欄には令和8年度以降で対応するものを記述させていただいています。これらの事業は主要事業という位置付けがあり、一旦は令和7年度で終わるということとなり、また継続していくかどうかは、今年度に検討することとなります。その中で、概ねほぼすべての事業を来年度実施することを想定していますが、先ほどご指摘いただいたとおり、改善できるところは改善するということは当然考えるべきと思っています。ただ、シートについてはこのようにしか選択しようがないということでご理解をいただきたいと思います。

宮村委員

一生懸命仕事をしていただき、この内容を公表していく中で、その真意が伝わっていかないということは不本意となるため、よりうまく伝わるように工夫いただきたいと思う。

若林委員

校務支援システムについては、このシステムを活用したところで、教職員の業務が減るということは決してないと思うので、ここの記述は非常に難しいだろうと感じる。令和8年度以降の事業内容について修正をいただき、校務支援システム事業としてはうまくいっているというような評価ができるよう考えていただきたいと思う。その中で、資料49ページの⑥課題で「コロナ禍と比較して学校行事が増加しているため、学校行事や教職員の業務の見直しを行い、精選する必要がある」とあるが、コロナ禍を経て、かなり行事等は減ったというか精選されたという感覚があ

る。例えば運動会や体育祭であったり、遠足であったり、社会見学であったり、これ以上に学校行事がどのように減らせるのか、教育委員会としてどのような想定をしているのか、教えていただきたい。

2点目、資料34ページ英語推進事業について、ALTの配置が前年度まではあった派遣委託がなくなり、JETだけになったが、不具合は生じていないのか。また、令和6年度までは英語試験がずっと実施されているが、令和7年度には予定されていないが何か理由があるのか。これまで積み上げてきたCEFR-A1レベル相当以上を求めていくというところで、成果が少しずつ見えてくる頃かと考えられるが、如何か。

学校課長

1点目、コロナ禍前と同様まで戻っている学校もありますし、コロナ禍を経て様々な手法を選んで実施している学校もあります。学校行事だけに限らず、体験活動等も増えてきており、実施しなければならない事業等も増えている現状がありますので、総合的に、また地域性等も踏まえ学校事情等も含め判断しています。

2点目、ALTに関しての不具合については、学校現場から特に今のところは聞いてはいません。ただ、JETであると自分で車の運転ができないため、公共交通機関を使うか教育委員会職員の送迎が必要となっています。中学校については、本年度からALTが直接学校へ行くことはしていませんが、Zoomができる体制をとっています。また、英語試験については、今まではGETECを使用していましたが、その費用対効果等を勘案し、最終的には定期テストの問題の質を改善することで、この評価値が分かるようにして、実施していく方向で提案しています。

吉岡委員

資料42ページ、学校図書館支援事業について、④指標が「児童生徒1か月の一人当たりの貸出冊数」となっているが、学校図書館だけのものか、「ほんくる。」や電子図書館の分も含まれているのか、自分で購入した本も含まれるのか。また、成果が「B」となっているが、これを打破する方向性等はあるのか。

学校課長

貸出冊数については、図書貸出冊数となっていますので、学校図書館の本を何冊借りたのかが指標になっており、電子図書館等については、この中では図れない数字であり、家で本を読む冊数

も含まれていません。また、成果指標に対する方向性については、図書館との連携の中での、電子図書や「ほんくる。」等の活用の推進を図っています。加えて、図書館担当者が学校の中で様々な取組ができるよう、図書館担当者に対する研修の機会や他の学校の図書館担当者との情報交換会等を設けています。

(異議はなく、議案第49号は可決される。)

教育長 議案第50号「令和7年度亀山市教育功労表彰者について」事務局の説明を求める。

教育部長 議案第50号「令和7年度亀山市教育功労表彰者について」であります。提案理由としましては、市の学校教育、社会教育、学術の振興又は文化財の保護等に貢献した者を表彰するため、亀山市教育委員会表彰規則第5条の規定に基づき、別紙名簿の者を令和7年度亀山市教育功労表彰者として決定することについて、委員会の議決を求めるものです。詳細につきましては、総務課長より説明します。

吉岡委員 12の北澤氏の所属は加太小学校か、関小学校か。
総務課長 加太小学校です。

(異議はなく、議案第50号は可決される。)

10. 報告事項

教育長 報告事項1「令和7年度9月教育委員会事務局補正の概要について」説明を求める。

(総務課長詳細説明)

(質問はなく、報告を終わる。)

教育長 報告事項2「生徒指導について」説明を求める。

(学校課長詳細説明)

(質問はなく、報告を終わる。)

教育長 報告事項3「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について」説明を求める。

(学校課長詳細説明)

若林委員 全体的にはよく頑張っていたらと思うが、特に気になったのが中学校の数学について、全問題数が15のうち、5ポイント以上マイナスの数が14ある。教育委員会として、今年だけの傾向なのかどうか分からないが、どのように捉えているのか。何が大きい課題であるのか、去年のみえスタディチェックでの比較であるとか、何かしら資料があるのであれば教えていただきたい。

学校課長 この学年が小学校中学年からこれだけの差があったのかというところというわけではありません。基礎基本の積み上げ教科において、基礎的な内容が徐々に積み上げられなくなり、少しずつ右下がりになっているという現状があります。最初の小学校4年生のみえスタディチェックの結果をそのまま維持できるかどうかが大切となってきます。多少上下はするものの、右に下がらないようにすることが基本的な対策となると思いますが、この学年は、綺麗な右下がりというような状況です。算数・数学という教科の本質は、全学年の学習内容を理解した上で、新しい学年のものが積み上がるというものですので、その当該学年の学習だけでは回復が難しい現状があります。いかに理解できていない学年の学習を補充できるかが重要になってくるとは考えています。中学校3年生だけに限りませんが、あくまで事業改善や基礎学力よりも、学習ができる環境がしっかりあるのかという部分も含めて、今回の中学3年生に関しては課題になっていると考えています。

若林委員 中学校3年生については様々な状況もあつてと理解したが、中学校1年生2年生については成績が維持できているのか。その辺りの見通しについては如何か。

学校課長 すべての数字等を把握できているわけではありませんが、見通しとして、今までのみえスタディチェック等の経年変化から判断すると、あくまで現段階とはなりますが、来年度の中学3年生も厳しい状況ですので、基礎学力をつける取組が重要であると考えています。

教育長 中学校の数学は厳しい状況である。小学校は何とか全国や県の平均と同程度である。小学校から私学へ通学する子がいたとしても、中学校では結構下がっており、この傾向は5～6年前から続いている。対策は講じているが、なかなか上がる傾向まで至って

いない。基礎学力の剥落というか、小学校の時にしっかり定着してない部分があると推察される。加えて、学校課長が言ったように、学習する環境・雰囲気・その学年のムードが、中学3年生となっても、あまり感じられない部分もある。それは学校にも責任はもちろんあるし、先生の教え方にもあるが、家庭での雰囲気や環境なども影響していると考えられ、そういうあたりが亀山は特に弱いような感じを受けている。「勉強するだけが全てではない」「様々な経験するのが大事」「スポーツも大事だよ」という多様な価値感があることは決して悪いことではないが、全国学力・学習状況調査になると少なからず影響があるようにも思う。

大平委員

2年前に1学期の中間テストが亀山中学校にはなかったと記憶している。このデータは、1学期の何かしらのテストの成績をもとに指標されているのか。また、中間テストをなくしたことが、うまくいい方向に機能しているのかどうか伺いたい。

学校課長

中学校が定期的実施するテストと今回の全国学力・学習状況調査については問題の質が全く違うもので、いわゆる知識理解だけではなく、活用力も含めて問うというような部分があります。よって、このテストの結果は全く別物だと考えていただければと思います。高校入試の問題ともやはり質が違います。学習指導要領が言っているその教科の本質なり特性なりを踏まえた力がついていくのかを見ていくもので、教科書、中間期末テストのように短い文章の中に対して問題を1問解くというような形ではなく、問題が出てくるまでに2～3ページを開いていかないといけないとかという形で、全ての力が必要になる問題が多いものとなっています。

教育長

テストの回数が減ると、全国学力・学習状況調査の点が下がるかということ、そういうわけでもない。そもそも言われているのは、大学入試の問題や高校入試の問題の流れや質を含め、今回の状況調査の内容を何かしら統一性を持たすことが出来ればいい。そうになると、普段勉強している内容や教え方も変わる。テストの内容や入試についても、そのような視点で見直そうという流れもある。

宮村委員

非常に素朴な疑問となるが、この児童生徒の質問調査の結果を見ると、非常に全国の平均と比較して、多いのもあるが随分落ち

ている項目もある。「国語の勉強は好きですか」「算数・数学の勉強は好きですか」等、全国平均と随分開きがある。三重県の平均は分からないので何とも言えないが、県民性とか市民性とか、遊ぶ場所が多いとか違う興味が多いとか、その理由は何なのか。分かれば教えていただきたい。

学校課長 まず、資料は全国平均と比較して記述させていただいていますが、三重県の平均も全国より全部低い結果となっていますので、そういう意味では三重県全体が全国に及んでいない状況となっています。学習時間とはかなり相関があるものですので、そこは大きな課題と考えていますし、今年の全国の結果を分析しても、昨年度と比較した場合、平均ではなく相対的に勉強しなくなっている児童生徒が増えている傾向にはなってきています。

宮村委員 全国よりも10ポイント前後少ないというのは、やはり勉強量によるものかと想像する。

教育長 本当にこの結果が良くないからといって、その幸福度や将来の進路等に必ずしもリンクするものではない。結果が良かったに越したことはないし、今後の選択肢が増えることはあると思うが、そもそも勉強をしてないところで何をしているかを分析しないとイケない。他に別の違う能力を発揮し、また別の能力が身についているかも分からない。難しい部分である。

吉岡委員 資料21ページの自己肯定感等の項目で、特に中学3年生の結果が全国を下回っている。思春期等の影響もあるかもしれないが、この結果について、どのように分析が行われているのか。

学校課長 自己肯定感については、人との関わりの中で育ってくるものだと考えています。そういう意味では、一番身近である家庭、学校のクラスや中学校においては部活動も関わってくる部分だと思います。確実な原因を特定することは難しい部分がありますが、比較的他の項目と比べると、全国や三重県とそこまで変わりはない結果ですので、そういう意味では「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答が、昨年度も本年度も高くなっていますので、先生方の言葉がけができていのかなども思います。一方では、同年代の人間関係の中で悩む部分や、イコールではありませんが不登校が多いところも若干影響があると考えています。基本的には関わりを授業の

中で増やす、また授業以外でも増やしていく中で、他の人のよいところを認めたり、新しい発見をしたりというような取り組みを通してとは考えています。あわせて小学校と中学校の違いですが、やはり小学校の方は学級担任、中学校は教科担任制となっております、悪いわけではないですが1人の先生がじっくり見るということに対して、中学校はたくさんの複数の目で見ていただいているという現状があり、これらも影響が少なからずあろうかと思えます。

教育長 先生方は、今までと変わらず、子どもたちを褒め認めているが、その受け止め方に違いがあるのかとも感じる。教育委員会内でも、今年は自分には良いところがあると思う子が少ないと話していた。それは何が原因なのか、落ち着かない学級生活であるのか学校生活であるのか、何か分からないが、本当に同じことを先生は褒めているのに、こういう結果になるということである。資料22ページには、調査結果を受けての具体的な対応が記述されている。学校現場の負担等も考えつつ、様々な工夫に取り組んで、少しでもポイントが上がるよう努力していきたい。
(ほかに質問はなく、報告を終わる。)

教育長 報告事項4「図書館利用状況について」説明を求める。
(図書館長詳細説明)
(質問はなく、報告を終わる。)

教育長 報告事項5「工事及び委託事業の発注状況について」資料確認

教育長 報告事項6「教育委員会行事及び予定について」説明を求める。
(総務課長、学校課長、生涯学習課長、図書館長詳細説明)
(質問はなく、報告を終わる。)

報告事項7「後援事業について」資料確認

11. その他

総務課長 令和7年度教育功労者表彰式の開催について

9月臨時会について

12. 閉会

午後2時48分

以上会議の顛末を記録し、下記のとおり署名する。

教育長

3番委員

4番委員